

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

疾患名	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)
性器クラミジア感染症	284	255	274	260	286
性器ヘルペスウイルス感染症	257	178	177	117	147
尖圭コンジローマ	79	75	65	60	68
淋菌感染症	59	47	55	60	42
性感染症報告数 小計	679	555	571	497	543

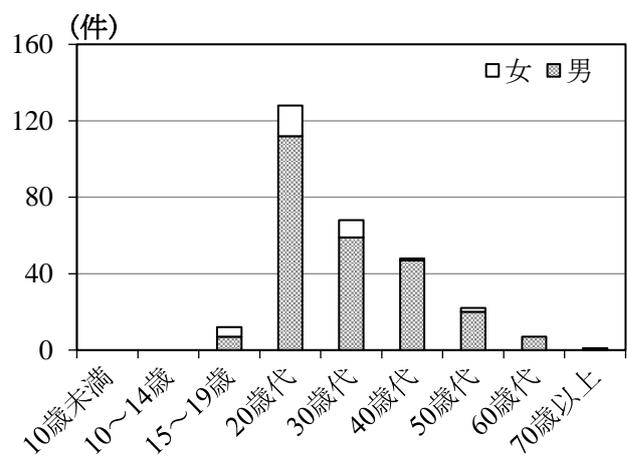
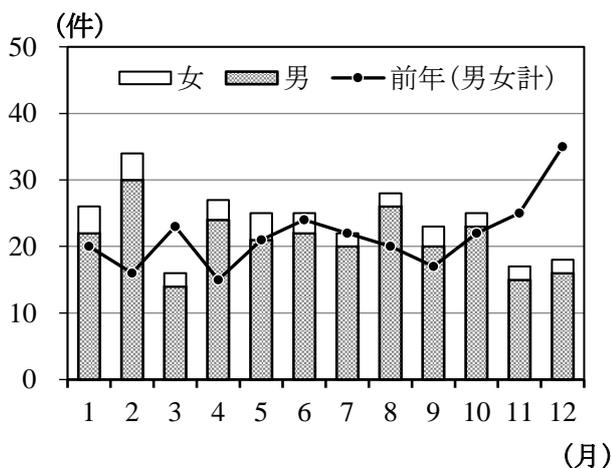
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	276	269	209	252	253
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	1	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	3	2	0	1	1
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	282	272	209	253	254

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は543人で、前年（497人）より増加した。性別では、男性371人（前年346人）、女性172人（前年151人）と、前年と比べ男性・女性ともに増加した。疾患別では、性器クラミジア感染症（52.7%）が約半数を占め、次いで性器ヘルペスウイルス感染症（27.1%）、尖圭コンジローマ（12.5%）、淋菌感染症（7.7%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

【性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は286人と、前年（260人）より増加した。過去5年間の年間報告数は約260～280人で推移している。

本疾患はわが国で最も多い性感染症である。性活動に活発な若年層に多いが、女性は感染しても自覚

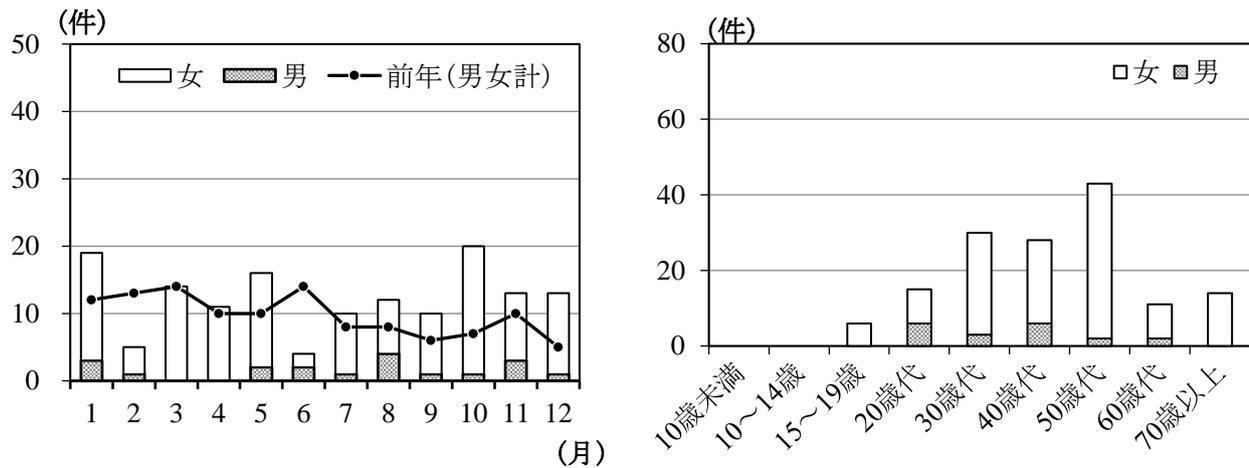
症状に乏しいため、診断治療に至らないことが多いとされている。

月別報告数では季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性が 253 人と、前年（223 人）より増加し、全体の約 88%を占めた。女性は 33 人と、前年（37 人）よりやや減少した。

年齢層別報告数では、10 歳代 4.2%、20 歳代 44.8%、30 歳代 23.8%、40 歳代 16.8%、50 歳以上 10.5%と、20～30 歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

【性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】

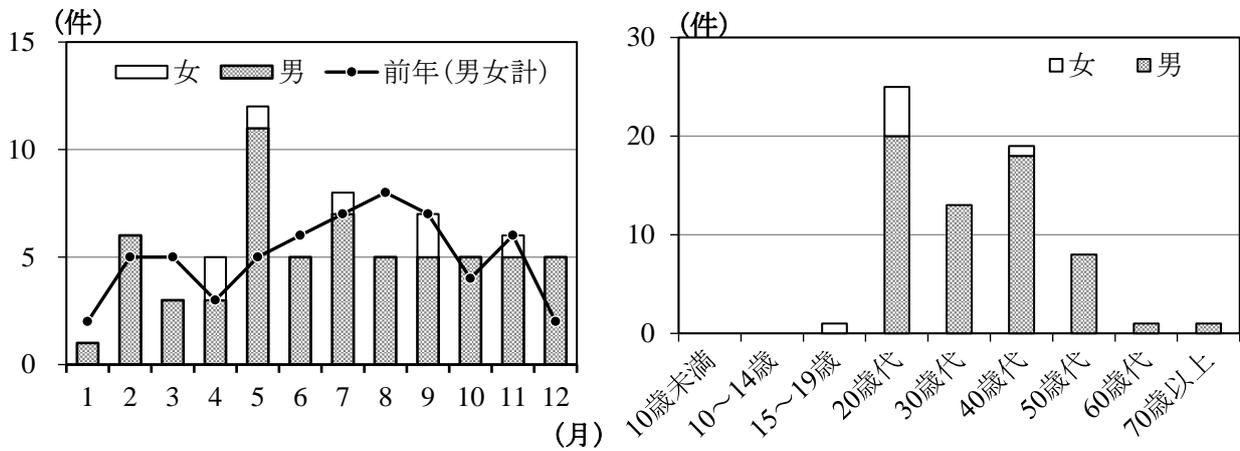


年間報告数は 147 人と、前年（117 人）より増加した。月別報告数推移でも、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。性別では、男性 19 人（前年 23 人）、女性 128 人（前年 94 人）と、男性は前年より減少し、女性は増加した。また性感染症全体では男性の報告数が多いが、本疾患は女性が約 87%を占めており、他の疾患に比べ女性の割合が高いのが特徴である。

年齢層別報告数は、10 歳代 4.1%、20 歳代 10.2%、30 歳代 20.4%、40 歳代 19.1%、50 歳代 29.3%、60 歳代 7.5%、70 歳以上 9.5%と、30～50 歳代を中心に、幅広い年齢層で発生した。また、60 歳以上からの報告数が他の性感染症と比較して多い傾向が認められたが、本疾患の原因となる単純ヘルペスウイルスは一度感染すると神経節に潜伏し、長年にわたって再発を繰り返すため、再燃の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

【尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢層別患者報告数】

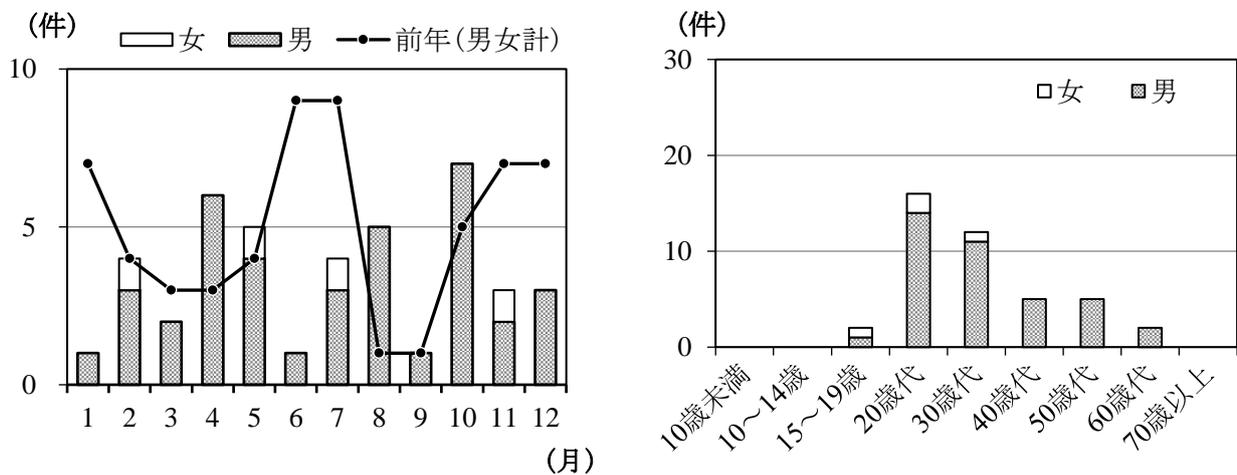


年間報告数は68人と、前年（60人）より増加した。性別では、男性が61人と、前年（43人）より増加し、全体の約90%を占めた。女性は7人と、前年（17人）より減少した。

患者の大部分は性活動の活発な年代であり、年齢層別報告数は、10歳代1.5%、20歳代36.8%、30歳代19.1%、40歳代27.9%、50歳代11.8%、60歳以上2.9%と、20~40歳代からの報告が多かった。

④ 淋菌感染症

【淋菌感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は42人と、前年（60人）より減少した。性別では、男性38人（前年57人）、女性4人（前年3人）と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約90%を占めた。

年齢層別報告数は、10歳代4.8%、20歳代38.1%、30歳代28.6%、40歳代11.9%、50歳代以上16.7%で、20~30歳代からの報告が多かった。

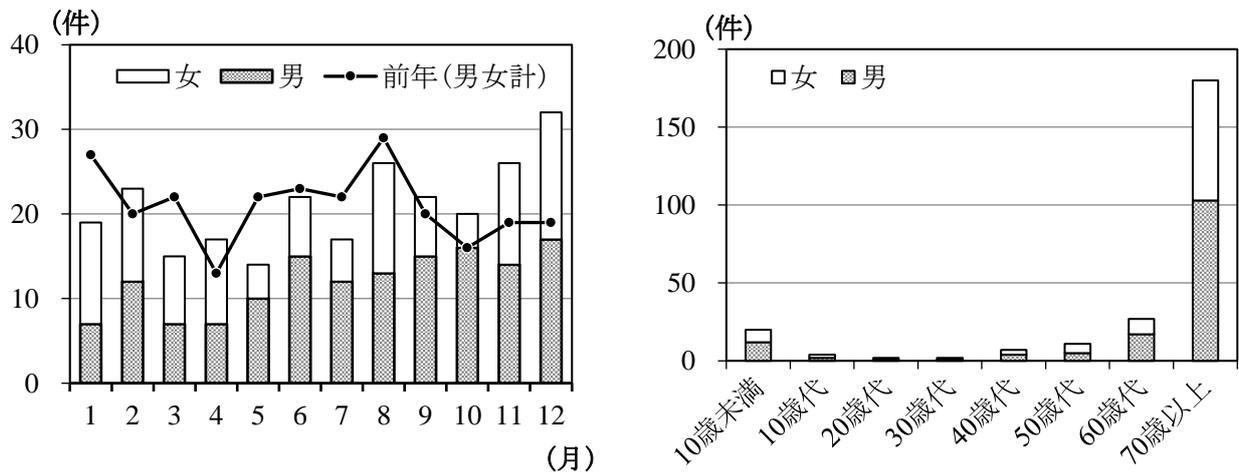
淋菌感染症の報告数は、女性が男性より極端に少数であることについて、女性の自覚症状が乏しく受診の機会が少ないことが要因の一つと考えられる。淋菌の感染により HIV ウイルスの感染が容易になるとの研究報告もあり、今後も動向を注視すべき疾患である。

(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は254人で、前年(253人)と同程度であった。疾患別の報告数においては、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が99.6%を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢層別患者報告数】



年間報告数は253人であり、前年(252人)と同程度であった。性別では、男性145人(前年148人)、女性108人(前年104人)と、男性からの報告が多かった。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。

年齢層別報告数は、10歳未満7.9%、10歳代1.6%、20歳代0.8%、30歳代0.8%、40歳代2.8%、50歳代4.4%、60歳代10.7%、70歳以上71.2%と、70歳以上からの報告が多かった。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

前年に引き続き、本年も報告はなかった。過去5年では、0~3人で推移している。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は1人(前年1人)であった。過去5年では、毎年0~3人で推移している。

年齢層別報告数は、70歳以上が1人であった。